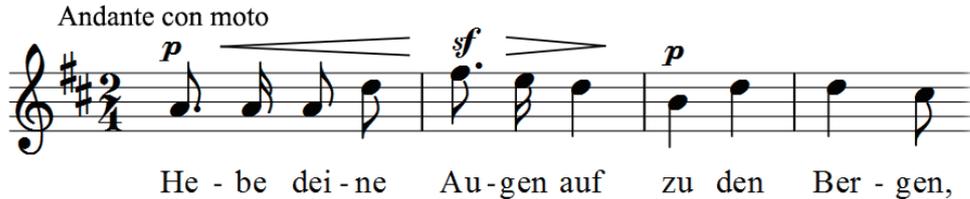


# FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

女声合唱—男声合唱

## 1. Hebe deine Augen auf zu den Bergen

目を上げて山々を眺めよ (女声合唱)



*Hebe deine Augen auf zu den Bergen,*

目を上げて山々を眺めよ

*von welchen dir Hilfe kommt.*

あなたの助けが来る方へ

*Deine Hilfe kommt vom Herrn,*

あなたの助けは主のもとから来る

*der Himmel und Erde gemacht hat.*

そのかたは天と地をお造りになった

*Er wird deinen Fuß nicht gleiten lassen,*

主はあなたの足もとを危うくすることはない

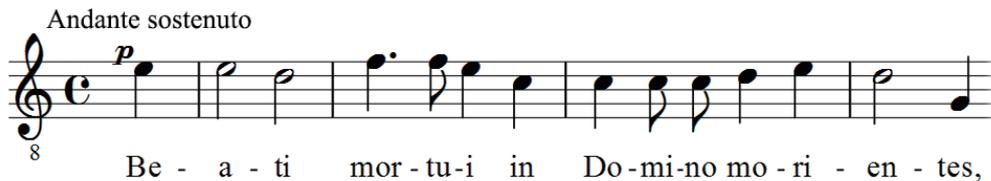
*und der dich behütet, schläft nicht.*

そしてあなたを見守り 眠ることがない

この曲は Mendelsshon の傑作、オラトリオ「エリアス (Erias)」の中で歌われる天使の3重唱。迫害を受け絶望のうちに死を覚悟したエリアスに奇跡がおこる。天使たちが現れ、彼の視線を神の救いが訪れる山なみの方に促す。天国的で明るい透明な響きが、エリアスの苦悩に満ちた魂に光を灯して行く。天使達が山の向こうにある救済の地に導こうとする、上行形のメロディーラインが随所に聴かれる。

## 2. Beati mortui op.115-1

死に逝く人は幸いである (男声合唱)



*Beati mortui in Domino morientes deinceps.*

主のもとで死に逝く人は幸いである

*Dicit enim spiritus,*

霊も語る

*ut requiescant a laboribus suis*

彼らは労苦から解放されるであろう

*et opera illorum sequentur ipsos.*

彼らの見事な業績は死後もついて行く

(ヨハネの黙示録14, 13)

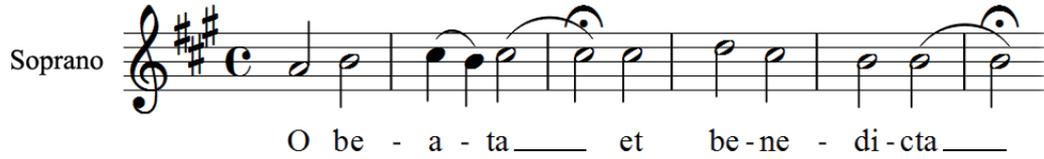
男声合唱のための宗教作品。ドイツ語訳は„Selig sind die Toten“で Schütz, Bach, Brahms などがこのテキストで作曲している。その音楽は幸福„Beati“に満ち、全ての労苦から解放されて神の国に入り、永遠の休息を得る„requiescant“と、喜びをもって歌っている。その響きは柔らかく流動的である。

# FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

女声合唱—男声合唱

## 3. *O beata et benedicta*

幸福に満ち 祝福された (女声合唱)



*O beata et benedicta et gloriosa Trinitas,*  
幸福に満ち 祝福され 栄光に満ちた三位一体よ

*Pater, et Filius et Spiritus Sanctus.*

父、子、そして聖霊

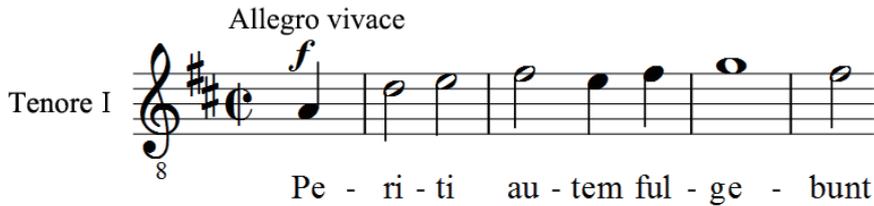
*Alleluja.*

アレルヤ

Mendelsshon がイタリア留学の折、ローマの女子修道院トリニタ ディ モンティのために作った作品。三位一体の祝日用の曲でオルガンの伴奏で演奏される。曲は清純で明るく、ハーモニーは透明な光彩を放ち、聖なる美の極致である。

## 4. *Periti autem fulgebunt* op.115-2

分別のある (思慮深い人) はさらに輝く (男声合唱)



*Periti autem fulgebunt ut fulgor aethereus.*

賢い(思慮深い)人は大空の輝きの様に輝き

*Quique multos reddiderunt justos*

多くの人を義に導く者は

*erunt stellarum similes,*

星の様に輝き

*in omnem aeternitatem.*

永遠にいたるでしょう

(ダニエル書12,3)

キーワードは「光輝く」,fulgebunt“ あるいは「輝きのように」, ut fulgor “ である。自らが思慮深く正しく生きた人は、復活の際神の栄光に包まれて輝く。曲調は大変明るく、高揚感や期待感に充ちている。長く伸ばされた音符の上で、義に導いた人々も「永遠に」,in omnem aeternitatem“ と歌われる。

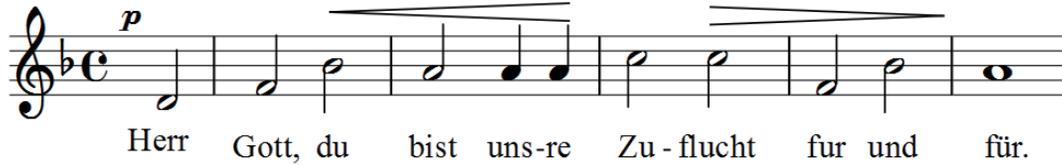


# FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

## 3. Am Neujahrstage

新年

**Andante**



*Herr, Gott, du bist unsre Zuflucht für und für.*

主よ、あなたは永遠に私たちの安息の地である

*Ehe denn die Berge worden,*

それは山々や

*und die Erde und die Welt erschaffen worden,*

大地、そして世界をお造りになる以前からです

*bist du Gott von Ewigkeit zu Ewigkeit.*

あなたは永遠に神であられるゆえに

*Hallelujah!*

ハレルヤ

最初の音楽的フレーズの頂点は「避難の家、安住の地」„Zuflucht“である。その後、ゆっくり、幾重にも重なってに神が創造した「山」„Berge“、「大地」„Erde“、「世界」„Welt“が立ち現れる。神の永遠性を表現する言葉„Ewigkeit zu Ewigkeit“には、4小節の長い時間が当てられている。

## 4. In der Passionszeit

受難節 (四旬節)

**Adagio**  
solo



Herr, ge - denke nicht uns-rer Ü-bel-ta - ten,

*Herr, gedenke nicht unsrer Übeltaten,*

主よ 私たちの過ちを考えないで下さい

*und erbarme dich unseres Elends.*

私たちの悲嘆を憐れんでください

*Herr, der du unser Heiland bist, stehe uns bei,*

主よ あなたは私たちを救済する方 私たちのそばにいて下さい

*erlöse uns und vergieb uns unsere Sünden*

私たちを救い 私たちの罪を許してください

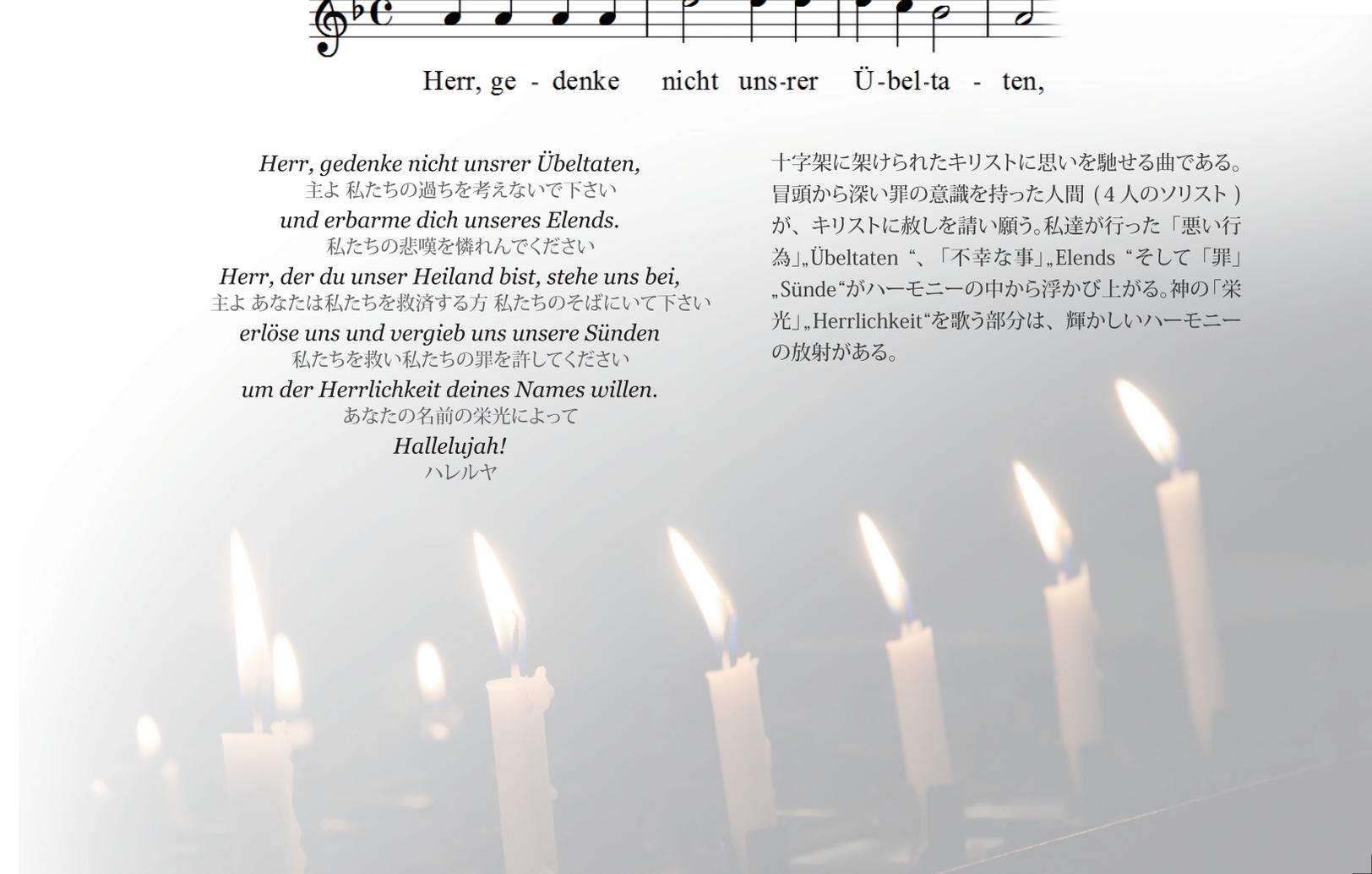
*um der Herrlichkeit deines Names willen.*

あなたの名前の栄光によって

*Hallelujah!*

ハレルヤ

十字架に架けられたキリストに思いを馳せる曲である。冒頭から深い罪の意識を持った人間 (4人のソリスト) が、キリストに赦しを請い願う。私達が行った「悪い行為」„Übeltaten“、「不幸な事」„Elends“そして「罪」„Sünde“がハーモニーの中から浮かび上がる。神の「栄光」„Herrlichkeit“を歌う部分は、輝かしいハーモニーの放射がある。



## FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

## 5. Am Karfreitage

聖金曜日

Sostenuto e grave  
*pp*

Um unsrer Sünden wil-len hat sich Christus ernied - ri - get

*Um unsrer Sünden willen hat sich Christus erniedriget,*  
私たちの罪のせいでキリストは屈辱を受けた  
*und ist gehorsam geworden bis zum Tode am Kreuze;*  
死の時まで十字架にかけられた  
*darum hat Gott ihn erhöht,*  
だから神はキリストを天の高みにつけた  
*und ihm einen Namen gegeben, der über alle Namen ist.*  
そしてあらゆる名前を越えた一つの名前を与えた

*Hallelujah!*  
ハレルヤ

Am Karfreitage(聖金曜日)とは、キリストの十字架上での死に祈りを捧げる日である。前半は時が止まった様に静かである。重い罪の心は、キリストが「受けた屈辱」„erniedrigt“の所や「十字架上の死」„Tode am Kreuz“を想うと、これ以上歌えなくなる。そして強い口調で「だからこそ」„darum“と叫び、神がキリストを「天の高みにつけた」„erhöhet“と訴える。

## 6. Am Himmelfahrtstage

昇天祭

Allegro maestoso e moderato

Er - ha - ben, o Herr, über al - les Lob,

*Erhaben, o Herr, über alles Lob,*  
崇高なるかた 主よ あらゆる賛美を受けるかた  
*über alle Herrlichkeit,*  
たくさんの栄光で  
*herrschest du von Ewigkeit.*  
あなたは永遠に(私たち)を照らして下さい

*Hallelujah!*  
ハレルヤ

復活したキリストが昇天した日を記念して歌われる。キリストを賛美する讃歌である。キリストがあらゆる「賛美」„Lob“や「栄光」„Herrlichkeit“に値することを、各フレーズが高揚感を持って讃える。天の高みから人々に向けてその栄光で照らすように、下降するメロディーで「支配する(栄光をてらす)」„herrschest“が歌われる。

## FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

## „Die Deutsche Liturgie“

「ドイツ礼拝」

[作品成立の経緯]

Mendessohn が 1846 年に書いたこの作品の背景には、長年にわたるドイツの礼拝における音楽の問題が強く影響している。それは、どんな音楽様式の作品が、礼拝のなかの信仰的で敬虔的な表現に適合するかだった。当時のドイツロマン派の特徴は、パレストリーナ様式で書かれたアカペラの曲に宗教的な感情、気分を求める風潮にあった。礼拝用の音楽もドイツ人の作曲家によるパレストリーナ様式のコピー的な作品を使用していた。Mendessohn は Bach の作品の素晴らしさを再発見した人であるが、当時のドイツの多くの教会ではトーマス教会のように Bach の作品を実用的に礼拝で演奏すると言うスタイルではまだなかった。Mendessohn 自身も Bach の作品を取り上げその真価を蘇生させた功績は大きい。当時の彼の Bach 作品の認識は、礼拝よりコンサートに適していると考えたことが、彼の手紙から読み取れる。また Haydn や Mozart の宗教作品は、やや世俗性やオペラ的な色合いを持っていて、礼拝には適さないと考えていた。彼はローマへの旅行の時、カトリック教会での典礼と音楽と理想的な形を体験したのを契機に、プロテスタントの教会でも統一された礼拝のための音楽のあり方や、それにふさわしい音楽を模索した。そんな中プロイセンの王、フリードリヒ・ウイヘルム 4 世 (Friedrich Wilhelm IV) の統治の時、新しく改革された礼拝に関する儀式書 (Agende) が出された。そして Mendessohn に作品の依頼があり、この„Die Deutsche Liturgie“ 「ドイツ礼拝」が生れた。

1. *Kyrie eleison*

主よ あわれみたまえ

Andante sostenuto

Ky - ri - e e - lei - son, Chri - ste e - lei-son,

*Kyrie eleison*

主よ あわれみたまえ

*Christe eleison*

キリストよ あわれみたまえ

2 つの合唱団が応答を繰り返しながら進む。„Kyrie“ と „Christe“ のリズムや上行する音程は、主やキリストを仰ぎ見ながら、呼びかけている様子を現わしている。「あわれんで下さい」„eleison“ は、罪から救済を懇願する深い祈りに満ちた、メロディーラインである。

## FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

2. *Ehre sei Gott in die Höhe*

高きにあります神に 栄光あれ

*Ehre sei Gott in der Höhe und Friede auf Erden*

いと高きところの神の栄光 そしてそれは 地には平和をもたらし

*und den Menschen ein Wohlgefallen!*

人に喜びをもたらす

*Wir loben dich, wir benedeien dich,*

主を讃え、主を祝福し

*wir beten dich an, wir preisen dich,*

主に祈りをささげ 主をほめたたえる

*wir sagen dir Dank um deiner großen Herrlichkeit willen.*

主の大いなる栄光のもとに感謝を捧げる

*Herr Gott! Himmlischer König! Allmächtiger Vater!*

主なる神、天上の王、全能の父なる神

*Herr, du eingeborner Sohn, Jesu Christe!*

主なるひとり子 イエス・キリスト

*Herr, Gott, du Lamm Gottes, Sohn des Vaters!*

主なる神 神の仔羊 父の御子

*Der du die Sünde der Welt trägst, erbarme dich unser!*

あなたはこの世界の罪を背負われた 我らを憐れみたまえ

*Der du die Sünde der Welt trägst, nimm an unser Gebet.*

あなたはこの世界の罪を背負われた 我らの願いを聞き入れたまえ

*Der du sitzt zur Rechten des Vaters, erbarme dich unser!*

あなたは父の右に座しておられる 我らを憐れみたまえ

*Denn du allein bist heilig, denn du allein bist der Herr,*

あなたこそが聖なるもの あなたこそが主

*du allein bist der Allerhöchste, Jesus Christus*

あなたこそが崇高なるもの イエス・キリスト

*mit dem Heiligen Geiste in der Herrlichkeit Gottes, des Vaters.*

聖霊とともに、父なる神の栄光のもとに

*Amen!*

アーメン



テキストは、ラテン語によるミサ曲の„Gloria“のドイツ語訳である。男声パートの力強い「栄光あれ」„Ehre“の呼びかけで始まる。すぐ穏かで安堵感のある最弱音で、地には「平安」„Friede“、強音で人間には「喜び」„Wohlgefallen“と続く。

次の部分のテンポは急に速くなり、神への賛美と感謝の言葉 („loben“, „benedeien“, „anbeten“, „preisen“, „Dank sagen“)が壮麗なハーモニーの中で宣言される。主の名を呼び合う (Herr, Gott!, Himmlischer König!) 部分は、二つの合唱団が独立して応答を繰り返す、伝統的な二重合唱のスタイルで展開される。

そのあと、キリストに背負ってしまった罪の重さを嘆くように、ソリストたちが歌う。悲痛な心情を吐露している。最後の部分のテンポは再び速くなり、第1コーラスを第2コーラスが摸倣する形で始まる。「神だけが唯一神聖で主である」というテキストで「～だけ」„allein“, と言う言葉が強調される。

# FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY

## 3. Heilig, heilig, heilig

聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな

*Heilig, heilig, heilig, ist Gott der Herr Zebaoth!*  
聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神としての主よ

*Alle Lande sind seiner Ehre voll.*  
全て地はあなたの栄光で満たされます

*Hosianna in der Höh!*  
いと高きところにホザンナ

*Gelobt sei der da kommt im Namen des Herrn!*  
主の御名において来るものを誉め讃えよ

*Hosianna in der Höh!*  
いと高きところにホザンナ

**Allegro**

The musical notation is on a single staff in treble clef, with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). It begins with a piano (*p*) dynamic marking. The first measure contains a quarter note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4. The second measure contains a quarter note C5, a quarter note B4, and a quarter note A4. The third measure contains a half note G4. The fourth measure contains a half note F#4. The fifth measure contains a half note E4. The sixth measure contains a half note D4. The lyrics 'Hei - lig, hei - lig, hei - lig,' are written below the notes, with hyphens under 'lig' in each of the three phrases. A *cresc.* marking is placed above the second measure. A slur is placed over the notes in the fifth and sixth measures.

Hei - lig, hei - lig, hei - lig,

ラテン語によるミサ曲の„Sanctus“にあたる。

冒頭では高音域から低音部に向って、「聖なる」„Heilig“という言葉が降り注いでくる。まるで神聖な音響空間が立体的に出現したような印象を持つ。

3回繰り返されるのは三位一体の象徴である。

全体を通じて Mendelssohn の明るい色彩と美しいハーモニーが、聴く人の魂を純化し心を癒す。

最後の響きが消えた瞬間、豊かに満ち足りた時間が広がって行く。

